

## 令和5年度第3回岡山県国民健康保険運営協議会 議事概要

- 1 日 時 令和6年2月8日（木）午後2時から午後3時40分
- 2 場 所 岡山県庁東棟3階大会議室
- 3 出席者（委員） 綱島委員、山坂委員、太田委員、佐藤委員、田頭委員、  
伊達委員、浜田委員、足羽委員、南委員、高田委員、國定委員  
（事務局） 木村子ども・福祉部次長、坂本医療推進課長、  
國富健康推進課長、真田長寿社会課長、  
池宗国民健康保険団体連合会事務局長  
県・国保連合会担当職員
- 4 傍聴者 1名
- 5 概 要
  - （1）挨拶
  - （2）議事

事務局から資料に基づき説明し、その後質疑応答を行った。

- ・ 第3期岡山県国民健康保険運営方針（案）の答申
- ・ 令和6年度国保事業費納付金及び標準保険料率の算定
- ・ 令和6年度国保特別会計予算
- ・ 岡山県国保ヘルスアップ支援事業

### 《主な質疑内容等》

#### 【第3期岡山県国民健康保険運営方針（案）の答申】

委員：パブリックコメントでの医療費適正化に向けた取組について、健康自己責任論から脱却して健康の社会的決定要因SDHに着眼した取組を採用することが必要だというご意見があるが、具体的にどのようなものなのか。

事務局：経済的・社会的な要因が健康に与える影響が大きいので、自分の健康行動を変えるだけでなく周りの環境因子にも働きかけるような取組はどうかということだと受け止めている。

委員：自己責任論だけでもSDHだけでも駄目なので、双方を組み合わせていかないといけないと思う。

委員：具体的なイベントや計画などはあるのか。

事務局：国保だけの話ではないが、自然に運動ができたり身近に参加しやすい健康に関する様々なイベントがあるような、自己努力でなくても健康になれる環境づくりについて何かできないか考えているところである。ボランティアや医師会にも協力いただいて、社会参加や情報提供等の働きかけをしっかりと行いたい。

委員：地域でのイベントの中で実際に体操やニュースポーツ等をする企画もあり、運動はとても大切なことだと思っている。また、健診を受けることも必要だ。岡山県は受診率が低いが、地道な活動が大切だと思い、市や愛育委員で機会を捉えた啓発活動を行っている。

委員：パブリックコメントで、決算補填等目的の法定外一般会計繰入を行う市町村が現れても連携会議等で不当な圧力をかけないでほしいとのことだが、国の方針でもある健全な財政運営をしていこうと言うことが不当な圧力と捉えられるのは残念だ。他の医療保険も財政が厳しい中頑張っており、同じ保険者として国保も頑張っており、より適切な運営をしてほしい。

#### 【令和6年度国保事業費納付金及び標準保険料率の算定】

委員：1人当たり保険給付費の増加は、医療をより多く使う高齢者の比率が増えた影響によるものか。増加の原因が医療の高度化なのか被保険者の高齢化なのか分析するためには年齢階層別で医療費をみるべきではないか。

事務局：納付金の算定時には、70歳以上と未満を分けて医療費の計算を行っている。70歳以上と未満では1人当たり医療費が倍近くになっている。来年度までに団塊の世代が後期高齢者医療制度へ移行していく影響で、今後1人当たり保険給付費の上昇が落ち着く可能性はある。

委員：出生率が落ちて加入者数がどんどん減っていき制度を支えている層の減少率が激しいため、1人当たり保険給付費の増加が落ち着くことにはならないのではないかと思う。

委員：資料6ページの財政調整の仕組みを見ると、現役世代が多く加入している社保では保険料収入の大半を高齢者のために使っている実態がある。高齢者が医療にかかるのは当然のことだが、子や孫世代に負担をかけていることは認識していただき、少しでも健康になるよう努力することは必要であ

り、後期高齢者の団体や国保保険者からそういった話を加入者へしてもらえたらと思う。

【令和6年度国保特別会計予算】

委員：後期高齢者支援金は、岡山県では増え続けているのか。

事務局：後期高齢者数は増えているが、国保の被保険者数が減っているため令和6年度の支援金総額は前年度と比較して減少している。

【岡山県国保ヘルスアップ支援事業】

委員：新規透析導入患者数と糖尿病性腎症による新規透析患者数は、いずれも減っており、取組の効果がでていているということか。また、これらの取組は国保の被保険者のみが対象か。

事務局：取組の効果がでていていると思っている。本県は透析患者の糖尿病性腎症の割合が全国よりも低くなっている。説明したのは国保被保険者が対象だが、プログラム自体は保険者ごとに取り組んでいただけるものである。

委員：保健指導の受診率が全国平均と比べてかなり低い。社保では、健診を受けた当日に保健指導も行う取組などで受診率が上がっている。県でも何か対策をしているのか。

事務局：市町村ごとに課題があり、それぞれが解決に向けて工夫しているところである。受診率の高い市町村の取組を広げていけるようにしていきたい。

委員：メタボ対策の一方で、高齢者の低栄養や痩せに対する問題があるが、メタボ対策とフレイル対策をどう展開していくのがよいのか。

委員：メタボは成人病の話で、脈管系の障害で亡くなるのを予防することが目標だが、フレイルは筋肉量の話で、日常生活が自分で送れることを目標としており、年齢で目指していることが違う。

事務局：健康づくりの面からいうと最近では、歩くだけではなく筋肉を鍛える運動が推奨されており、フレイル対策の視点で動いていると思う。

委員：国保特別会計の資料の中で、保険者努力支援制度交付金の来年度予算額が少し減少しているのは、特定健診や保健指導の受診率が他の都道府県に負けているからということであれば、そこを改善するようにしてほしい。

事務局：保険者努力支援制度交付金には保健事業を含む多くの指標があるため、予算額の減少には様々な要因がある。